全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第35号(平成23年７月号)

錦　ー色彩、模様などのきれいなものー

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿5-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　鈴木　正之
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

私塾ネットの 塾が塾を応援する！ 東日本大震災支援対策　経過報告

私塾ネット東日本大震災支援対策委員会
委員長　田中宏道（千葉　ＬＡＰＩＳ）

東北地方太平洋沖地震とその後の余震の影響により、被災された皆様にお見舞いを、そして、復興のために活動なさっている多くの方々に御礼申し上げるとともに、夢ある復興を心よりお祈りし、その復興にほんの少しでも我々私塾ネットがお役に立ちたいとの思いで、「東日本大震災支援対策委員会」を立ち上げました。

ここに途中経過をご報告いたします。

（１）「東日本大震災　義捐金」

義捐金を、『あしなが育英会』へ寄付をする。

＜趣旨＞

私塾ネットの実行する支援は、教育分野の復興に特化して行われるべきであり、そこで思い立ったのが震災遺児たちへの教育支援です。今回被災に遭い、保護者を亡くした学生・生徒たちに、志を強く持ち、将来の日本の牽引者となって、活躍してくれることを願い、「義捐金」として『あしなが育英会』に寄付し、震災遺児特別一時金として活用していただくこととします。

※　被災した子供たちへの奨学金（返済不要）は、すべて寄付でまかなわれています。

「義援金」とは、お見舞いの意味を込めて被災したすべての方に直接に届けるお金であり、「赤十字」や「中央募金会」を通じて、その受付団体と被災した都道府県、専門家が話し合って配分基準を決めるものです。

『あしなが育英会』は、「義援金」ではなく、「支援金」に相当するものであり、あえて「義捐金」と字を変えました。

（２）「東日本大震災　応援金（支援金）」

＜趣旨＞

私塾ネットという任意団体だからできること。

私塾ネットは、私塾を支援するための組織です。国や公的な機関のご指導を受ける組織ではなく、指図されず自由に動ける私塾の任意の全国組織です。規模からして、大手企業を除き、任意の全国組織では最大の組織であることは言うまでもありません。

そこで、私たち私塾ネットだけができる事は、「塾なのだから塾を助ける」と言うことではないでしょうか。

世の中には、今回の甚大な災害に対し、さまざまな基金・寄付があります。その多くが赤十字などの信頼にたるＮＧＯや公的機関への寄付になっているようです。

しかし、「私塾ネット」は「私塾」の「ネット」です。こんな時こそ、私塾ネットの会員であるか、なしかにとらわれず、「ネット」力を活かして私塾の支援に最大限の力を発揮したいと考えます。

私塾ネットの「東日本大震災　応援金（支援金）」は、塾が塾を応援（支援）するための資金とします。

※「支援金」とは、復旧・復興のお手伝いをしている団体を支援するお金です。

①　応援（支援）内容

＜支給先＞

「東日本大震災東北災害対策本部」の示唆により支援先を選定する。

多くの方が、様々な形で被災地への支援活動をされています。

例えば、

ア）被災塾への教材、文具、現金などの寄付

イ）引っ越しされてきた避難者を無料で受講させる

ウ）被災塾業務縮小のため、余剰スタッフの一時雇い入れ

エ）被災塾に採用予定だった新卒者の一時雇い入れ

その他、塾に限らずとも、様々な形で支援していることを耳にします。

甚大な被災状況の中、すべてを救済することは、残念ながら我々の力では不可能です。ですから、できることから始めたいと考えます。

これは、例えば大津波が来たときに、逃げ遅れているすべての方を助けたいと思っても実際には不可能であり、少なくとも目の前にいる方を精一杯救おうとすることと似ていると感じています。

そのためには、数多くのことを振り返り、検討していては手遅れになる事も鑑み、素早く活動できるように、意思決定を簡略化することが重要です。そこで、地震発生以来、自塾の震災もさておきながら震災の支援活動されている、私塾ネットエリア東北代表であり、宮城県の塾を中心とし、塾の被災状況をとりまとめ、その対応にあたられている「東日本大震災東北災害対策本部（本部長村川隆先生　宮城　東北進学セミナー）」の副本部長に就任予定の畑山篤先生の示唆をいただき、支援してまいります。

②　使途
私塾ネット東日本大震災支援対策委員会に一任する。
③　応援金（支援金）の使途例
ア）被災塾支援
スタッフのケガ・通勤不能や塾舎破損、被災した生徒がいるために自塾生の複数人が通塾しにくくなり、塾を運営するのに大きな支障が出た塾の支援
イ）支援塾支援
被災地域で塾や地域教育のためにボランティアとして活動する学習塾の支援計画停電や地震へのマイナス感情が働いての受付数、入塾者減少はその対象としません。
④　応援金（支援金）・義捐金とも２０１１年９月３０日まで受け付ける。
⑤　応援・支援が終了した時点で、応援金（支援金）の残高がある場合には
『あしなが育英会』へ寄付をする。

（３）その他　私塾ネットとして支援活動

＜趣旨＞
私塾ネット東日本大震災支援対策委員会が得た情報の中で、私塾ネットとして支援でき　ることを検討し、支援活動を行う。
支援したい気持ちはたくさんありますが、被災地の方に望まれることをすることが最大の支援と考え、私塾ネット東日本大震災支援対策委員会に入った情報の中から、私塾ネットとして可能な支援を選考し、支援にあたります。
①　支援活動内容
私塾ネット会員、協賛企業・団体に物資を募ったり、ボランティア派遣を依頼する。
前述（２）の支援金の一部を活動資金にあてることもある。
②　私塾ネットが、支援として現在行っていること
ア）被災地への教材の提供。
日本教材出版のご協力により、被災地からの要望にもとづき教材支援を行う。教材は無償で提供いただくものと、有償で私塾ネット震災支援部が買い上げるものに分類される。4月24日現在、気仙沼からの要望により、小学教材86冊、中学教材320部（いずれも無償提供）を支援済みである。
イ）エリア関東会員塾の被災児童の受け入れ。
（社）全国学習塾協会が実施する対応策に準じ、そのつど事務局が会員塾と連絡を取りながら、条件が合えば受け入れの支援をする。
※　私塾ネット会員の経営する「片山学園中学・高等学校」（全寮制）さんでは、３０名の生徒受け入れ態勢を整えました。

（４）ご厚意（義捐金・応援金）へのお礼

まずは、たくさんの方から、また会員塾以外の方も、多くの義援金・応援金（支援金）をお寄せくださいまして、誠にありがとうございます。
皆様から頂戴しました善意は６月１３日現在

１６８万８７０２円

になりました。
この金額に私塾ネットセンターから「あしなが育英会」への義援金５０万円を加え、

総額　２１８万８７０２円

を「あしなが育英会」への義援金と東北災害対策本部（本部長：宮城県多賀城市大沼学院　大沼信雄先生）への応援金（支援金）に振り分けてまいります。

まずは、第一段階として私塾ネットセンターから「あしなが育英会」へ５０万円を振り込み、また、「東北災害対策本部」および「被災塾」に、総額１５万円の支援金をお渡しいたしました。

遅れておりますが、ただいま、善意をお寄せいただいた方に「義援金」「応援金（支援金）」の振り分けをお伺いしている最中です。今後はこの振り分けがすみ次第、引き続き「あしなが育英会」への寄付と「東北災害対策本部」への支援を行ってまいります。

過日、５月７日（土）から８日（日）にかけて、私塾ネットセンター会長谷村志厚先生と副委員長の畑山篤先生、委員長の田中宏道が宮城県を訪問したおりの経過をご報告いたします。

５月７日（土）
１９：００　宮城県　仙台。
畑山篤副委員長、後藤泰雄先生（宮城県気仙沼　ゴトウ学習塾）、田中宏道対策委員長が合流。

宮城県　多賀城。
後藤先生のご案内で、大沼信雄東北災害対策本部長（宮城県多賀城　大沼学院）の津波の被害にあった塾舎にお見舞いに出向きました。
その場で、私塾ネットが「塾が塾を応援（支援）する震災支援対策委員会」を設立し、夢ある復興を心より祈り、その復興にほんの少しでも我々私塾ネットがお役に立つのであればとてもありがたいと感じていること、そして、東北災害対策本部の示唆で支援にあたりたい旨をお伝えし、大沼先生は快諾くださいました。

後藤先生、大沼先生に「塾が塾を応援する計画趣

意書」とお見舞い金をお贈りし、畑山先生に仮払いで支援活動資金をお渡しました。

５月８日（土）
１２：００　宮城県　仙台。
谷村志厚会長が合流。谷村会長、田中、畑山先生に加え、昨日に引き続き後藤先生、東北地区の塾の要であり、「東北対策本部」の荒木先生（大崎市アルファ学院）、村川先生（仙台市東北セミナー）のメンバーで会食しました。

後列左から荒木、谷村、田中、後藤。前列左から村川、谷村夫人、畑山。(敬称略)。私塾ネットからお見舞い金(一時金)を贈呈。

この席で被災状況と今後の「東北災害対策本部」の支援策についてもお話を伺いました。
◇被災状況は地域によってさまざまですので、一律に支援金をお渡しすることはできない。
◇直接津波被害を受けられた塾を優先して支援策をたてる。
◇今回のことを機会に、これまでまとまりの薄かった東北地方の塾のネットワークを強化する。
といった点が話の中心となりました。

ともかくも私塾ネットとしては、被災塾の直接支援を「東北災害対策本部」を窓口として実行していくことを伝えました。 なお、この席で被災された荒木先生にもお見舞い金を、対策本部会計担当の村川先生に支援金の一部をお贈りしました。

支援は９月３０日まで受付けます。
振込先：
郵便局　全日本私塾教育ネットワーク
口座番号００２３０－６－６８８２０

２０１２年４月２２日（日）は、浅草ビューホテルでお会いしましょう！
ニッポン復興　私塾ネット設立１０周年記念大会

2011年４月24日に開催予定であった１０周年記念大会は、2012年4月22日に「復興」をテーマに開催されます。会場は当初の計画通り浅草ビューホテルです。634メートル、世界一の電波塔として完成なった東京スカイツリーを間近に見上げながら、語らいのひとときを楽しみましょう。会員の皆さんのご参加をお待ちしております。尚、研修大会の内容等につきましては、現在実行委員会が検討、調整中です。

会場となる浅草ビューホテルの外観。
手前は浅草寺の五重塔。

平成23年度　私塾ネット四国職員研修会

日時：平成23年5月29日　会場：阿波観光ホテル

参加人数：58人(センター役員7人、近畿1人、中国6人、四国35人、非会員9人)

第1部(13:00～14:20)

－塾の未来を語る(各塾代表による3分弱スピーチ)－

寺嶋エリア代表の開会の挨拶で始まりました。今回は徳島県の塾協同組合の先生方も参加していただいたり、高知県の先生も参加していただき賑やかな会になりました。

次に、来賓の鈴木理事長からは、自己を変えることにより、自塾を変え、日本を変えることにもつなげていただきたいとの言葉をいただき、佐藤エリア中国代表は他の用事を押してまで参加いただいたとの嬉しい言葉もいただきました。

その後、初参加の先生方も多いということで、参加各塾の代表により3分弱スピーチがなされました。下がそのときのスピーチ用チェックシートの項目内容です。

①塾名と代表者のお名前
②塾歴と教室数
③対象学年と指導教科
④塾の得意分野は？
⑤成功したことチャレンジしていること
⑥失敗したこと、反省を含めて
⑦生徒に伝えたいこと
⑧これからのヴィジョン

開塾3年から30年以上の先生まで、本当に多種多様な塾の先生が集まっていらっしゃるのだと、改めてこの会の素晴らしい一面を見た思いがしました。そして、写真を撮りながら皆さんのお顔を拝見していると、皆さんそれぞれ、どの話にも感心するばかりではなく、「これはいただき！」「あ、いやこれはうちには合わないな…」などと表情がクルクル変わりながらメモを取っていらっしゃいました。それを見ていると金子みすずさんの「わたしと小鳥とすずと」の中の一節「みんなちがって、みんないい」という言葉を思い出しました。そう、みんないい！！のです。

第2部　(14:30～17:30)－ 教科研修＋α －

まず、山口名誉会長からお言葉をいただきました。「成熟したものは必ず腐って落ちる」というショッキングな言葉ではじまり驚いたのですが、それは、我々塾人は成長し続けなければいけないことの例えでした。そして、その成長の仕方も新しいステージに移りつつあり、それはこれからの日本をよくすることを目標にすることだと仰いました。

(1)How to 授業？基本編…神野純典(神野進学教室)

まず、25項目のチェックリストを配られ、それに基づいて各項目の重要性を確認していきました。下がその項目です。大項目**(1)授業前**①②、**(2)授業開始**③④、**(3)授業内容**⑤⑥⑦⑧⑨、**(4)動作**⑩⑪⑫、**(5)発問**⑬⑭、**(6)声**⑮⑯⑰、**(7)板書**⑱⑲⑳21、**(8)宿題**2223　**(9)挨拶**2425

①予習・教材　②授業の獲得目標　③定刻前入室　④定刻に授業開始　⑤導入　⑥展開　⑦まとめ　⑧次回の予告・指示　⑨時間配分　⑩視線　⑪立ち位置　⑫机間巡視　⑬内容　⑭相手方　⑮言葉遣い　⑯大きさ・抑揚・リズム　⑰明瞭さ　⑱ポイント明示　⑲大きさ・丁寧さ・量　⑳カラーマーカーの使い方　21消し方　22内容量　23チェック方法　24開始時　25終了時

授業内容では、特に大事なのは⑩⑪⑫の項目で表される授業中の動作であり、その中でも視線はとても大切である。たとえ何人の生徒が教室にいても視線は一人一人に向けられていなければならない。と。確かに、子ども達は全体で月謝払っているのではなく、一人一人が払ってくださっているのです。そこを大切にしなさいと、強調されました。

そして、さらに強調されたのが、自分自身が自分の授業を楽しんでいなくてはならないということを

関西弁の語調強くお話しをさてれました。が、神野先生は笑らわれたらCUTEなのです。奥様が惚れるのは無理もない…。

（２）教科研修Ⅰ「数学」…稲田祐一（小野塾）

入塾希望の待機者が出る、開塾10年の教室の先生で、若い力溢れまくりの先生です。主にオリジナルテキストを利用して授業展開し、授業中も上位の生徒が時間待ちしたり、話したりすることの無いように宿題を上手く利用した授業になっていました。

そして、この教室の最大特徴は目標を目に見える形で教室に掲示し、子ども達の覇気ややる気を引き出しているところです。具体的には、テストごとにテスト結果の目標（学年10位以内6名など）を課して、掲示し、みんなでその目標を達成する。という具合に、教室全体が活気溢れる工夫をされているのです。努力をすることで目標は達成されるのだということ、そして、目標があるからこそ努力することができることも教えているそうです。さらには、教室に、「塾長43歳の時オークラホテルの鳳凰の間で、約330人の卒業生とともに20周年パーティーを開催する。」と鳳凰の間の写真付きで教室に掲示があるのです。いやいや、聞いてる方がワクワク嬉しくなるようなお話しでした。クゥ～！若いっていいなぁ！稲田先生格好良かったですよ。けど、熟達も負けへんデェ。

（３）教科研修Ⅱ「英語」…柳田浩靖（日米文化学院）

会場を右へ左へ、大変なパフォーマンスを交えてお話し＋模擬授業をしていただきました。まず、塾を本気でやろうと思われたきっかけがすごかったです。塾生も減り、ジリ貧の状態になっていたある日の授業終わりに、一人の女の子から、「先生！先生はいつ塾を辞められるんですか？」と、言葉という透明な刃で刺されたそうです。刃で刺されたところを致命傷として塾を辞めるか、それとも、刺された傷から膿を出して生き残るか…。もちろん柳田先生は後者を選び「学校を超える！」を目標に様々な工夫をされたそうです。

具体的には、中1の段階でフォニックスをしっかりと身につけさせたり、英語の慣用的な言い方まで教える事をやったそうです。

そして、柳田先生の仰るところの、「ばなな英語劇場」を劇団員よろしく演じていただきました。あまりのパフォーマンスに会場は爆笑の渦に包まれました。でも、分かりますよ。先生が伝えたかったのは、自分を捨てて生徒の心に残る授業をすることの大切さですよね。そして、塾は生徒の人生を変える可能性があることを信じていらっしゃることはよく伝わってきましたよ。

（４）懇親会

あぁ～！！残念！懇親会のことを書く文字数が足りなくなってしまいました。まあ、いつものように、いろんな塾の個別・詳細情報は懇親会に出なくっちゃ分かりませんよね。

（５）終わりに…

台風が接近して、JRが止まり、高速道路さえも通行止めになるほどの暴風の中開催された研修会ですが、人数の多さもさることながら、若いエネルギーの大きさ、血湧き肉躍る力強さは決して台風に負けるものではありませんでした。そして、みんなの笑顔が素敵に輝いた研修会でした。

いつも最後になってしまうのですが、東京から、大阪から、広島から、遠路参加していただいた先生方、それに、会場の検討から準備していただいた徳島の先生方、本当にありがとうございました。個別に名前を書けなかったことをお許し下さい。

(追記)この研修会の後、私塾ネット四国の仲間が2塾増えました。嬉しい！！

瀬戸内の良心。
中四国の架け橋、佐藤先生と湯口先生。

塾業界の歴史。
業界大長老の山口名誉会長と現役バリバリの仲野関東代表。

理事長活動日誌

理事長　鈴木正之

私塾ネット１０周年記念式典が１年延期になった。３月１３日の緊急役員会（予定では実行委員会）において、実行委員長の谷村会長が「中止にしよう」とお話しされた。被災者の方々のことを考えると、当然と思う。しかし、３月１３日の段階では、地震に関する情報は不足し、原発のこともそれほど問題になる前であった。被害状況が明らかになった段階では当然と思うことも、その段階では「中止」とは考えられない要素が多分にあった。さらに、３年前から構想に入り、昨年１年間の記念式典委員会の方々の働きを見てきた私としては「やらないといけない」という気持ちもあったのは確かである。

谷村先生は実行委員長として４月２４日開催のため、最も時間を割いて計画を立て準備されてきた方である。その谷村先生から開催１か月前に「中止」という言葉がさらっと出たから驚いた。最終的に「延期」ということで落ち着き、今までの準備もすべてが無駄になることも無くなったが、副実行委員長の渡辺浩先生も辛かったのではないか。よく辛抱してくれたと思う。実行委員の先生方、役員の先生方に敬意を表したい。

完成したスカイツリーの下、２０１２年４月２２日に皆様とお会いできることを楽しみにしたい。

２０１２年度、私は理事長４年目になった。仲野新事務局長を迎え、１０周年に向けて私塾ネットの組織を改善していこうと思う。私塾ネットが２０００年６月１日に発足以来、仲野先生（現事務局長）と石川先生（前事務局長）と時折３人で集まり話を重ねてきた。仲野先生と私は関東以外事情が良くわからず、石川先生に頼ってきた。なるべくエリアに対しては私が口出しをしないようにしてきた。しかし、これからは各エリアに対して直接お話ししていかねばならない。そして、私塾ネットを変えていこうと思う。代表者会議で申し上げた内容の要点を以下に記載する。

●委員会

『東日本大震災支援対策委員会』震災についての対応は、３月１３日の役員会で委員会を立ち上げることから始まっている。田中宏道委員長を中心にやっていただくことになった。畑山先生にもご苦労をかけるがよろしくお願いしたい。

『ジュニアの会』次世帯を担う２代目３代目の先生の会。私塾ネットという枠ではなく、学習塾業界の未来の為に研究と研修をやっていただきたい。委員長は渡辺浩先生。

『１０周年記念式典実行委員会』引き続き、谷村志厚先生を実行委員長として、私塾ネットらしい式典と懇親会を期待している。

●エリア組織の充実

エリア活動推進部長を近藤誠介先生にお願いした。目的は私塾ネットの組織整備。手段として①エリアの組織化、②エリア九州の発足である。エリアの組織化については特に力を入れたい。

その後、エリア中部代表の松本先生ともお話しさせていただき色々気づいたことがあった。『私塾ネットの発足時の構想は、全国をエリアに分け、エリアの活動が私塾ネットの活動となる。センターは各エリアの情報を収集して他エリアに発信することが大きな役割。各エリアの自由な発想と活動は原則として規制せず、センターの活動は、年１回の全国研修大会のみ。私塾ネットは全国総会を実施せず、代表者会議が決議機関となる。』ところが、エリアの方々と我々の認識が大きく違うことを、情けないことに１０年経って知ることとなった。発足から１０年経って組織化できなかったのは我々執行部の責任である。大変申し訳なく思っている。だからこそ、今やらなければいけないと強く思うのである。寝耳に水というエリアもあると思うが、執行部も実現を目指して努力させていただくので、よろしくお願いしたい。まず、以下のことを10周年（２０１２年度）にむけて作り上げたい。

エリアの会員管理（名簿作成）

エリアに代表、会計、広報の役割を置く

総会（役員選出、決算予算、行事報告と行事予定）の開催

会計は、エリア会員の年会費を徴収しセンター会計にまとめて送金する。

広報は、年４回発行の私塾ネット広報（大住部長）の原稿を出していただく。

５月２９日のエリア四国総会では、代表者会議の件と合わせて同様のことをお話しさせていただいた。私塾ネットの中でエリアとしての組織が一番整っているのは四国である。湯口副理事長と寺嶋代表を中心に会員間のつながりが非常に濃く、活き活きとした活動を続けている。

我々はエリアの活動や交流により、我々学習塾が子供たちに対して、日本に対して何ができるのかを考え実行していくことが我々の目指すものと考える。教育が日本を変える。

総勢58名を数えたエリア四国の職員研修大会。
たくさんの笑顔と会えてうれしい。

第18回代表者会議（センター総会）
平成23年4月24日　浅草ビューホテル

平成２３年４月２４日、浅草ビューホテルを会場に私塾ネットセンターの代表者会議が開催された。本来この日は私塾ネット設立１０周年記念大会が開催される日であった。東日本大震災の勃発をうけて、記念大会は１年延期となり、この日は通常の代表者会議と会員・賛助会員懇親会が開催された。午後４時３０分、代表者会議が仲野十和田氏の司会進行で始まった。出席者は首都圏の執行役員の他に中部エリアから松本代表、原先生、近畿エリアから杉山代表、中国エリアからは山口名誉会長、佐藤代表、四国エリアからは寺嶋代表以下湯口先生、山田先生ら本人出席者は１７名を数えた。

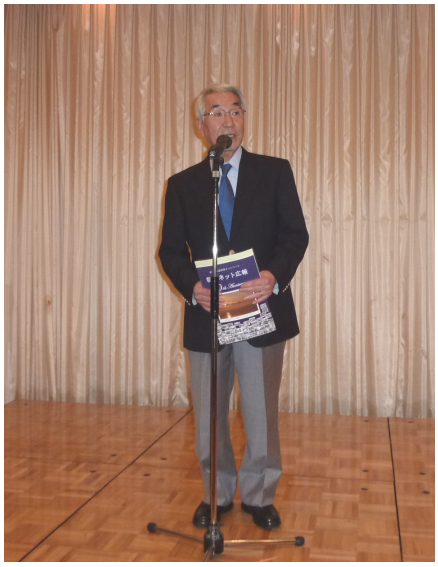
会議は鈴木正之理事長の挨拶から始まり、第１号議案の平成２２年度事業報告以下第７号議案まで、審議は滞りなく進んだ。谷村会長の閉会の辞で会議を結び、会場をかえて懇親会に移った。

↑開会を告げる鈴木理事長と右に仲野センター事務局長、左に渡辺関東総務部長。
↓私塾ネットの東日本大震災支援対策を説明する田中支援対策委員長。

エリアを代表してのスピーチ。右からエリア中国佐藤先生、エリア四国湯口先生、エリア近畿杉山先生、エリア関東仲野先生。

会場を沸かせたエリア中部の原先生による一本締め。

私塾ネット　会員・賛助会員懇親会を同時開催



賛助会員私学を代表してのご挨拶は、おなじみの實吉先生（東京女子学園理事長校長、東京私立中高協会副会長）。高邁にして辛口のコメントに会場は皆納得。

谷村会長は広報特別号編集秘話を披露。隣は編集作業に携わった田中えみさん。
（実は親子である）

私学の先生方から私塾ネットに期待のメッセージが寄せられた。文京学院大学女子中高の高石先生の熱のこもったスピーチ。

エリアネット通信

（青森県・志学塾）

【がんばろう地域教育】
『地域の教育、本気の教育』

２００８年１１月１２日午後８時、私たちは青森県は下北半島東通村にいました。（社）全国学習塾協会副会長の碇優先生、監事の荒木健吾先生をご案内して、私は、むつ市から車を走らせました。津軽海峡を左手に下北半島最涯地尻屋崎を目指し３０分程、すれ違う車もなく、民家の灯りもない夜道…。出発直前に、私はむつ市から祖父の家に、塾業界で尊敬してやまないお二人の大先輩をお連れできる旨、電話を入れました。実家を預かっている従兄弟と姪っ子は、「出前塾＠東通村」を驚きながらも大いに喜び、突然の電話でしたが近所に声掛けをしてくれました。

東通村は、太平洋と津軽海峡にはさまれ約６５ｋｍもの海岸線のある漁業と農業と原発の村です。人口は７千人余り。かつては村内の道路が未整備だったことから全国的にも珍しい、役場を村外（むつ市）に設置していた村でした。しかし、東通原子力発電所誘致により安定した財源が期待できることから、１９８８年に村制施行１００周年記念事業として村内に役場を移転しました。そして、もう一つ。原発誘致によって、２００５年１０月より「東通村学習塾」を全国に先駆けて開講しました。

教え魔碇先生の面目躍如。子供たちの笑顔がごほうびだ。

この度の東日本大震災から日も浅い４月２２日の読売新聞に、次のような報道がありました。

『原子力施設早期着工を要望』　～むつ下北の商工会など　～　東通村など下北地域の商工会などは２１日、同地域で原子力関連施設を建設または計画する４事業所を訪問し、建設工事の早期着工を要望した。→詳細は（２０１１．４．２２ 読売新聞）＞＞http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/aomori/news/20110422-OYT8T00160.htm

世界の反原発の動き、全国の原発の再稼働、凍結を巡っての安全性の議論が連日報道されていた同じ時期に、この青森県で、果たして、核の安全性についての結論が本当にでるものでしょうか。

ご存じの通り、青森県六ヶ所村には「六ヶ所再処理工場」という核燃料サイクル施設があります。日本全国の原子力発電所で燃やされた使用済み核燃料を集め、その中から核燃料のウランとプルトニウムを取り出す工場です。また、東通村には、東京電力の「東通原子力建設所」東北電力の「東通原子力発電所」があり、大間町には電源開発の「大間原子力建設所」、むつ市には「リサイクル燃料貯蔵施設」という４事業所があります。青森県下北半島は、まさに原子力銀座なのです。

青森県下北半島の人々は、核の安全性をどのように考えているのでしょうか。私は安全性の議論は中央で行われているだけで、地方では、安全だと言ってくれた人を信じているのだと考えています。議論は中央で、その話を説明に来てくれる人を信じているのだと思います。「あの人が言ったことだか…」と。テレビから流れる中央の豊かな生活、豊かな未来を夢見て、誘致や買収の交渉の席についたのでって、議論の席ではなかったのかもしれません。

ここに４月の統一地方選挙の議員に当選した方々の学歴一覧表があります。原子力施設を誘致している町村を挙げてみます。六ヶ所村村議会議員18人は大卒16.8% 高卒38.8% 中卒44.4%。東通村村議会議員14人は大卒7.1% 高卒71.5% 中卒21.4%。大間町町議会議員10人は大卒0% 高卒40% 中卒60%。佐井村村議会議員8人は大卒0% 高卒37.5% 中卒62.5%です。まず中卒の比率の大きさに私は驚きました。そして、中卒の議員の方々の年齢が60歳前後なのを見て、更に驚きました。私と変わらない世代です。因みに私の住んでいる八戸市市議会議員36人は大卒66.6% 高卒33.3% 中卒0%です。

私のルーツは下北半島にあります。私の父も母も、むつ市出身です。父は、若い頃に営林署の仕事を、その後は漁船に乗ってカムチャッカ半島の方まで出漁していたようです。母はむつ市で生まれ、東通村で育ちました。父の最終学歴は小学校卒です。母は中卒です。母親に、なぜ高校に進まなかったのか聞いてみました。すると「村に高校がなかったから。役場まで片道２里を歩くのは当たり前、でも、３里は歩かなかったねぇ…」と。「高校に進んだ友達は一人かな…むつ市に下宿という産業もなかった時代だから、親戚でもいないと高校は…」と。

議員の方々の学歴も、もちろん個々人の学力を直接的に表すものではなく、むしろ地域の教育のあり方で、子どもの進路選択が決まってしまうという現

実を物語っているのかもしれません。小中学校が義務教育であれば、学区で通うことになります。さらにその先に進もうと考えたら、地域に高校がないと…。教育、学力の格差は、地域の経済格差と連動しているのです。

村営塾の事情を知る方から話を聞きました。「原発の誘致の目的は雇用だった。関連企業も含め数社が村内に誘致出来た。しかし、地元の子どもの採用はなかった。理由は学力の低さだった…」と。そして、村長の肝いりで、全国の先駆けとなる村営塾を立ち上げたのですと。しかし、スタートから躓きました。期待していた塾団体との連携が不調に終わり、名乗りをあげた１塾単独との契約となり、村営塾の命運がその個人塾の力量に左右され、結果を出せぬまま今日に至っていると。今では、本気で進学を望む学力の高い層は、むつ市の塾に通い始め、村営塾の廉価な授業料に魅力を感じる比較的学力の底辺層が、力量不足の塾講師と勉強に取り組むという構図に…。

多くの子どもたちは、生まれてから家族と暮らし、学校に進み師と友と勉強し、社会に羽ばたきます。高校、大学で、さらなる切磋琢磨の機会が得られるのなら、その経験をした者としなかった者との教育観は、人生観は、どのようになって行くのでしょうか。

大震災、原発事故の復旧・復興は、地域の経済、雇用、そして教育の在り方に関わる大きな問題として立ちはだかっています。地元の願いは、雇用であり、施設・道路整備を柱にした地域の振興なのは明らかです。しかし、その根底には子どもの低学力の問題があり、国の教育、地域の教育、家庭の教育のあり方まで考えることが必要です。

本州最涯地尻屋崎のある東通村にも、子どもたちの笑顔があります。

東通村の子供たちと、左から荒木、碇両先生と筆者

エリア四国　代表　寺嶋　謙次（香川県・学習院セミナー）

先日あるセミナーで、「塾・予備校に通う高校生の割合」が、香川県は全国第１位だという話を聞きました。つまり、香川県の高校生が、全国で一番、塾・予備校に通っているのです。しかもダントツです（ちなみに、第２位、第３位は、岡山県、徳島県です）。

もちろん、私も塾・予備校業界の人間なので、深く深く感謝しています。しかし、喜んでばかりいられません。

普通は、これだけ通塾率が高ければ、さぞや現役合格率も高いだろう、と思いますよね？しかし、事実は真逆です。

大学入試センター公表の「都道府県別志願者数」を元に、香川県の高卒生率（浪人率＝浪人する高校生の割合）を計算してみると、なんと・・・、

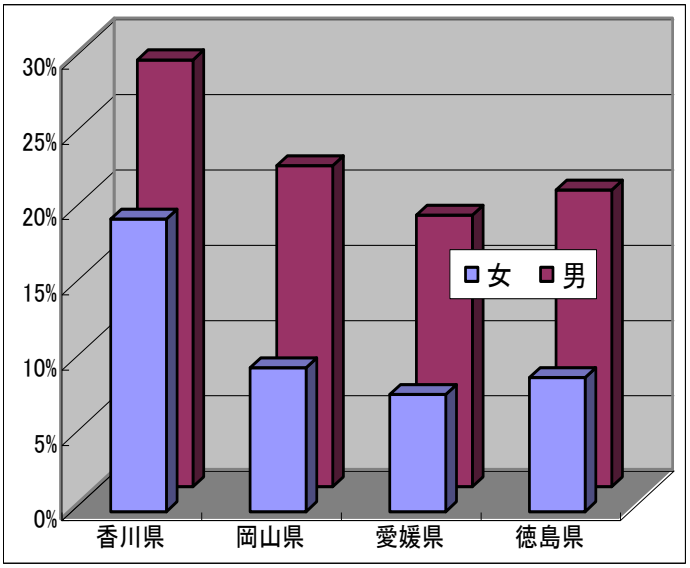
男子　全国第５位（28.36%）

女子　全国第１位（19.43%）という数字が出てくるのです。

おかしいですよね？

香川県の高校生は「まるで浪人するために塾に通っている」かのようです。

参考までに、通塾率全国第２位・３位の岡山県・徳島県と比較してみると（右のグラフ）、男子・女子ともに、香川県の高卒生率が異常に高いことがわかります（女子にいたっては、２倍以上です）。なお、浪人すること自体が悪い、と言っているわけでは決してありません。もう１年がまんしてでも、自分の道を切り開こうとする強い気持ちには、拍手を送りたいくらいです。



エリア関東　総務部長　渡辺　浩（東京都・渡辺塾）

平成２３年６月９日（木）、エリア関東第６０回定例会及び第４４回定例研修会が行われました。２０名ほどの参加者の中、今回はこの春に文京区白山から北区の赤羽に、校舎建て替えのため一時移転をされている「京北中学高等学校」の会議室をお借りしての開催となりました。「京北」には以前も定例会及び定例研修会の会場として訪れたこともあり（その時は文京区の白山でしたが）再度、川合校長先生のお話を伺いたいということで、今回もお願いをし、了承していただきました。今回の川合校長先生のお話は「保護者が期待する学校教育」ということがテーマで、保護者と学校がどのように関わっているのかを詳しくお話しいただきました。今回は、その講演内容を書かせていただきたいと思います。

まず初めに、「将来を見据えた教育課題」からお話をされました。今後懸念される事として、国際社会の中での日本の子供たちの学力を挙げられていました。人は、初めて出会う状況で、知識を応用する必要がある場合、困難に直面します。しかし、将来の労働市場に出たときに、必要とされるスキルを身につけていない日本の子供たちが少なくありません。だからこそ、文章情報を取得し、処理し、統合し、評価することが最大の課題であろう。また、科学が自分の人生に機会を与えてくれると考えておらず、自分の将来という観点から科学を学ぼうとする動機づけが弱いことにも触れ、特に女子の科学関連の活動への参加が低いことを懸念されていらっしゃいました。

次に「グローバルに活躍する日本人人材に求められる素質、知識、能力」とはという課題で、以下の項目を挙げられました。

①既成概念に捉われず、チャレンジ精神を持ち続けること
②外国語によるコミュニケーション能力（語学力に加え、相手の意見を聴いた上で、自分の意見を論理的にわかり易く説明する能力）
③海外との文化、価値観の差に興味・関心を持ち、柔軟に対応する

また、保護者の様々な子育てスタイルにも触れ、「溺愛型」「放任型」「愛着型」「過支配型」などのスタイルがあり、それぞれのケースの特徴とその対応の仕方について話されました。

そして、最後に「今、教師に求められる５つの力」ということを話されました。５つの力とは以下のようになります。

①「信頼」生徒に信頼される授業構築をしていますか
②「観る」それぞれの生徒の特徴や状態をいつも観察できていますか
③「聴く」生徒や保護者の話にしっかり耳を傾けていますか
④「話す」相手の立場も考えて、自分の言葉を明確に伝えていますか
⑤「協働」一人で背負わず同僚や上司と相談しながら物事を進めていますか

生徒に指導する立場としては、塾講師にも同じこ

とが言えるのではないでしょうか。こちらの思いだけを一方的にしゃべっている授業になっていないか、はたまた、「慣れ」のせいで、右から左に流す様な授業をしていないか、気づかされることが山ほどあった講演でした。

エリア中部　代表　松本　紀行（長野県・チャレンジ学院）

去る6月30日、長野県松本市を中心とする地震が発生致しました。マグニチュード5強の直下型地震だそうです。今後30年間で14.7%の確率で起こると予測されておりましたが、ナント早々やってきたのには驚かされました。松本市の南部が震源地で、狭い範囲に集中して被害を出しております。建築業者の話によりますと、私共の塾舎の真下が震源地だったそうです。ドンと言う音とともに下から突き上げるアッパーカットのような衝撃があり、7階建てビルの屋上にある水槽タンクが、見事真っ二つに破壊され、ビル全体が洪水のような状態になりました。私の知る限りでは、大きな遊技場2件の天井、そしてジャスコの天井が落下し、3件とも営業中止となっております。道路には亀裂が走り、私共の駐車場も同様でした。只今緊急に水道関係の修理とコンクリート塀の作り替え等を中心に、改修工事に取り掛かっております。完成するまでに1ヶ月から2ヶ月と掛りそうですが、ご家庭に迷惑がかからないように最大限努力してやっているところです。震災支援の立場が被災者の立場に変わり、皮肉にも両方を体験する羽目になりました。実は霧ヶ峰林間学校の改修工事をする予定の矢先の出来事でしたので、急遽南松本駅前ビルの改修工事を優先することとなりました。鈴木理事長や仲野事務局長から関東地区の研修会会場として霧ヶ峰はどうかと打診をされておりましたが、このような事態となり、提供することが難しくなりましたので、実情をお話しご理解をいただきました。機会があればいつでも使用していただければ幸いだと考えております。関東地区の皆様にはご迷惑をおかけすることになりましたこと、この紙上でお詫び申し上げます。併せて、関東地区の研修がご盛況になることをお祈り申し上げます。

エリア中国　広報部長　西本　雅明（広島県・パワーゼミ西本塾）

５月12日に広島駅前のホテルで全員出席のもと定例会が行われました。その会議では佐藤代表から定例会の在り方について意見を求められましたが、今まで通り「癒しと情報交換」を主テーマにエリアを運営していくことが全員一致で確認され、通常通りに会員各塾の活動状況や、それぞれの地域での生徒たちの動向、学校の様子、ライバル塾の動きなどが報告されました。この会議で報告される内容は広島県の最も端っこに位置し、情報に疎い僕にとってはとても大切な情報源になっています。さて、私塾ネット中国では年6回の定例会のうち５回は広島駅前、１回は福山市を会場とすることが恒例になっています。前述の「端っこに位置する」に関してですが、広島県は意外と広く主要都市である広島市と福山市は直線距離で100㎞離れています。福山在住の私は広島市へは新幹線、岡山市へは在来線で行くという感覚であり、岡山市の方が広島市よりはかなり近いイメージを持っています。広島市の塾は県東部の学校とはあまり関わりが無く、福山市の塾にとって県西部の学校情報は入りにくいということになります。福山地区の保護者にとっても、岡山県の学校情報はとても知りたがりますし、僕の教室では福山市内と岡山県西部の私学公立を含めた進路指導をすることが普通です。広島市の学校へ進学する生徒はほとんどいません。私塾ネット中国の会員は、県西部地区の塾が多いので、７月の福山で行われる定例会は福山地区の私学見学会をすることになりました。各校あたり一時間弱の短い見学会になりますが、それぞれが持ち味を生かした説明をしてくださるだろうと期待しています。洗練された広島市近辺の学校と異なり、学習塾との接触にまだ少し抵抗感を持つ学校も多いのですが、だんだんと良いお付き合いが出来るようになればと考えています。今回、昼食は学校の食堂で生徒たちが普段食べているメニューを頂くことになりました。メニューの数も味もとても楽しみです。また、地元フリーペーパーの記者も同行取材をするそうです。どのような記事になるのかも楽しみなところです。

エリア近畿　代表　杉山　信良（大阪府・栄光塾）

２月１４日の京都に於ける第一回エリア近畿の総会から、気がつけば、もう半年が過ぎてしまいました。

この間、三月と四月に浅草での代表者会議に出席し、五月のエリア四国主催の徳島のセミナーにも参加して、原稿もこれで三回目ですから、いつの間にか、私塾ネットに「深く足を突っ込んでしまったな。」と実感しております。

一方で、地元近畿の活動はというと、総会以来集まる事も無く、まだお話すら出来ていない会員さん居るというのが現状です。

ただ、私が私塾ネットに入れていただいたのは、「いろいろな塾の団体が、それぞれ同じような内容のセミナーを開いているが、お付き合いで参加する方は大変だから、杉山がまとめてくれよ！」という悲鳴にも近い懇願があって入会させていただきました。

ですから、近畿でさらにイベントを増やすという愚行は間違っても犯さないのですが、とはいえ所属する団体が私塾ネットだけという近畿の会員さんもいらっしゃる事と思いますので、「忙しい、忙しい」ばっかり言ってないで、夏季講習が終わりましたら、九月に集まる事をお約束して、エリア近畿の活動報告とさせていただきます。

公私共に他の事では順調な私ですが、ことエリア近畿の活動となると、とたんに気が重くなります。

会計部報告　会計部部長・監物一男

会員の皆様には、日頃よりいろいろとご協力いただきありがとうございます。今年度は特に東日本大震災があり、皆様方からの義援金・支援金などのご厚意もたくさん届いております。これらは、震災遺児や東北地方の塾対策本部の支援などをさせていただくことになっております。私塾ネットは全国の会員の皆様方のご協力のもとに成り立っていることを改めて痛感いたします。

さて、今年度会費につきましては、賛助会員の方々と各エリアのご協力の基、円滑な会計運営ができるよう、宜しくお願い申しあげます。現在、23年度のセンター会費の徴収を行っております。つきましては、各エリアごとに、センター会費を集めさせていただきたいと思います。詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当にお問い合わせください。

エリア代表者
エリア関東　仲野十和田（ナカジュク）
エリア近畿　杉山信良（栄光塾）
エリア中国　佐藤将紀（若竹塾）
エリア四国　寺嶋謙次（学習院セミナー）

又、北海道、エリア東北、エリア中部、エリア九州に於きましては、センター会計部より、個別にご案内をお届けいたしておりますので、ご確認ください。

又、賛助会員の方におかれましては、代表者の変更などございましたら、ご連絡のほど宜しくお願い申し上げます。

尚、詳細やご不明な点は、センター会計部　監物一男（048-688-6903　向学館内）までお問い合わせください。

【郵便振替でご送金の場合】
以下の郵便口座までご送金ください。
（口座番号）０２３０－６－００６８８２０
（口座名義）全日本私塾教育ネットワーク

【銀行振替でご送金の場合】
埼玉りそな銀行　七里支店
普通預金　４４１３３１６
（口座名義）私塾ネット　会計部長　監物一男

以上、よろしくお願い申しあげます。

渉外部報告　渉外部次長・加藤　実

佐藤勇治渉外部長が多忙のため、私に報告の仕事が回ってきました。依頼メールが10日の朝８時に来てましたが、しかし、これは見てませんでした。で、10日午前10時過ぎ、調布市市民プラザ「あくろす」にて直接指示を受けました。

そんなわけで、今回は10日行なわれました「生きいきワクワク体験　親子の集い」（NPO法人全国教育ボランティアの会主催、後援が文部科学省、調布市教育委員会、調布市社会福祉協議会。協賛が株式会社東京電力、市民活動支援センター、調布ＦＭ放送株式会社）の報告をしたいと思います。

第一部　ボランティア指導体験実習
（午前10時～11時30分）
１．コンニャクを作って田楽とさしみコンニャクを食べよう（調理室）
　指導　田中敏勝全国教育ボランティアの会理事長
　指導　菅谷友豊香慶應受験会主宰

２．ケプラー式望遠鏡作りと天文教室（はばたきホール）
　指導　西畑正夫実験工房厚木主宰
　指導　中嶋浩一一橋大学大学院名誉教授
司会進行は佐藤勇治全国教育ボランティアの会事務局長

子どもたちが来る前にボランティアがしっかり実習するというのが、「全国教育ボランティアの会」の方針なのである。指導するスタッフが手順・所要時間等を頭に叩き込んで準備をしている。だからこそ毎年の成功があるのだ。コンニャク粉、水酸化カルシウムの小分け等の下準備も大変なのだ。スタッフは何日も前から準備に入っている。
望遠鏡の紙筒、レンズ等の準備及び製作も大変な手間がかかっている。

第二部　生きいきワクワク体験・親子の集い
（午後１時～午後５時）
１．セレモニー
（１）開会の辞
　NPO法人全国教育ボランティアの会理事長田中敏勝
（２）講師紹介
（３）来賓紹介
（４）ガイダンス
　「生きいきワクワク体験・親子の集い」
　実行委員長佐藤勇治
挨拶は文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課民間教育事業民間教育事業第一係主任駿河克宏氏だけですぐにガイダンスに入った。挨拶が長いと子どもたちが飽きてくるので、簡潔なのはよかった！

２．「生きいきワクワク体験・親子の集い」
（午後１時30分～午後５時）
（１）ケプラー式望遠鏡作りと天文教室（２階はばたきホール）
（２）コンニャクを作って田楽とさしみコンニャクで食べよう（３階調理室）

調理室は人数に限りがあるため、毎年２グループに分けている。セレモニー会場にそのまま残って望遠鏡作りと天文教室を行なうグループと、調理室に移動してコンニャク作りから始めるグループとに分類。同じように終わらないと交代がうまくいかないので、時間調整が難しい。

子どもたちの表情は真剣そのもの。親御さんたちもしっかりフォローしていた。まさに「親子の集い」そのものである。
コンニャク作りは難しい。お湯の温度管理は当然であるが、コンニャク粉を少しずつ入れながら、しっかり掻きまぜないとダマになってしまってうまくいかないのだ。焦りは禁物。

２階と３階を行ったり来たりして録音・写真撮影・ビデオ撮影を行なったので、大変疲れた。午後６時過ぎ「天春」で食事をして７時頃解散した。
大変疲れたが、充実した１日であった。

私塾ネットセンター　事務局通信

この4月より、再び事務局長をさせていただくことになりました。3年前とは、自分を取り巻く環境も変化しているので、当初とても躊躇がありましたが、最近2度ほど聴いた中村文昭氏（クロフネカンパニー代表）の講演の中で、「あなたにできない仕事を、人は頼まない」「頼まれごとは試されごと」「できない理由を言わない」というメッセージが心に響いたこともあり、お引き受けさせて頂きました（笑）。ただ、役割の大変さとは別に、このような大役を再び任せ頂けることは、本当に幸せなことだと思っております。

まずは、名簿管理から手を付けております。この広報に同封させていただく予定でしたが、もう少し時間がかかりそうなので、お待ちください。名簿を見ながら、以前よりお顔と名前の一致する方が増えているのが、嬉しいことの1つです。今回事務局になって、最初の入会手続きをさせていただいたのは、エリア四国の千田裕三先生（進学センター英進舎）、宮崎順子先生（未来舎）。5月29日に行われた、エリア四国の研修でお会いし、台風の中、夜中まで行動を共にさせていただきましたので、すでにお仲間のような気がしています。

鈴木理事長とは、関東代表とその事務局という形で、以前一緒に仕事をさせていただきました。エリアの仕事としては、企画・運営を行っていく実行部隊のような役割でしたが、センターの事務局は、各エリアの活動を応援していくのが大きな役割だと思っています。私塾ネットにあまり予算はありませんが（笑）、任意団体が故、自由さのある団体です。この自由さというのは、社会的な自由さだけではなく、団体内のそれも大きいと思っています。

私も微力ながらエリアの活動のお手伝いをさせていただきたいと思っておりますので、それぞれのエリアらしい企画が行われることを楽しみにしております。また、1年延長になりました、設立10周年記念のイベントを成功させたいと思います。

最後に、東北の被災で影響を受けられる方々へは、心から応援申し上げます。先日の長野の地震では、松本紀行先生（チャレンジ学院）塾舎も建物に大きな損傷を受けたとお聞きしました。大変なことだと思います。

私塾ネットも『災害対策委員会』が立ち上がっておりますが、何ができるかを考えながら、あの大惨事を忘れることなく、前へ進んでいきたいです。

何かとまた、ご迷惑をおかけすることと思いますが、よろしくお願い申し上げます。　事務局長　仲野十和田

閑話休題　編集長　谷村志厚

当号の編集にはいささか手を焼いた。というのも前号が特別号であったため編集・印刷作業が外注だった。よって手作り編集作業は2月以来となり、いささか手間取ってしまった。それは小生ばかりでなくて原稿を執筆される側でも同様である。原稿の依頼も催促も滞りがちで、いささか時差ボケが生じてしまったようだ。それでもなんとか発行予定日に帳尻があったのも、すべて会員の皆さんのご協力のたものである。ことに毎号表紙を飾る城先生の対応はおみごと。ご本人とやっと連絡がついて、わずか半日で完成原稿が送信されてきた。老いたりとはいえ（失礼）鉄人はあなどれぬものである◆時差ボケといえば、10周年記念大会の準備も同様である。4月の大会中止の余波に足を掬われ、来年度の計画が足踏みである。夏期講習明けの9月から実行員会を「実行」せねばならない。そろそろ惰眠から目覚めよ◆震災支援報告で田中さんが書かれているが、5月に仙台を訪れ被災地区の塾の皆さんとお話できたのは有意義であった。宮城の皆さんとお会いした翌日、同行した家内と二人で仙台市若林区の荒浜地区を訪れた。仙台市内で最も津波被害が大きかった地区だ。市内から車で30分、仙台東部有料道路をくぐり海岸線に出るとそこには、荒廃したがれきの原が広がっていた。本来ならば緑の植田が広がる穀倉地帯だ。人知ではいかんともしがたい自然災害だが、海岸線から数キロの地域に並行する有料道路が、住民の生死を分けたのである。その後家内は震災地にボランティアのパートナーを見つけ、先週今週と2週続けての石巻市入りである。その行動力には学ぶべき点多々あり。

フォート・ほっとコラム

錦＜種種の色糸で織った厚い高価な絹織物＞

私の塾のあるところは山口県と広島県の両県にまたがっています。
そこに広島県の宮島と並び山口県の名勝錦帯橋があります。
この橋は5連の美しいアーチ橋でその木組みの美しさもまた格別で一度は見ておきたいところです。
春の桜、夏の鵜飼、秋の紅葉、冬の雪景色とそれぞれに趣のある景観を見せてくれますが、最近はライトアップされた錦帯橋を見ることが出るようになり、また違った美しさを楽しむことができます。
光をなくし暮れて行く夕闇の中で輝きを増してゆくこのアーチ橋の美しさを素敵な誰かと二人で眺めて見られるのも一興かと思います。
素晴らしい出会いと涼を求めてぜひ山口までませ。

錦　＜色彩、模様などのきれいなもの＞

（文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆　先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健　先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　森　　保　先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　丹野　秀彦先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　小嶋　輝夫先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

京北学園中学高等学校　野中　政廣先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　園田　義宣先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子高等学校

村田学園小石川女子中学校　小林　隆司先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-5　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　金井　一郎先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　伊藤　裕先生
東京都お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　和田　功様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　山田　博史様
豊島区東池袋1-21-11-7Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276